



日本平滑筋学会ニュースレター

No.10 2016.7.30

発行所: 日本平滑筋学会事務局
〒105-8461
東京都港区西新橋 3-25-8
東京慈恵会医科大学外科学講座
TEL: 03-3433-1111 内線 3401
FAX: 03-5472-4140
E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
HP: http://www.jssmr.jp
発行責任者: 羽生 信義
編集者: 高木 都

—ブレイクスルーを求めて—

第 58 回総会を迎えて

第 58 回日本平滑筋学会総会 (<http://www.c-linkage.co.jp/jssmr58/>) は東北医科薬科大学・消化器外科教授・柴田 近会長のもとで開催されます。柴田会長に抱負を伺いました。

ご挨拶

第 58 回日本平滑筋学会総会
会長: 柴田 近
東北医科薬科大学 消化器外科

このたび、第 58 回日本平滑筋学会総会を 2016 年 8 月 17 日(水)～19 日(金)の 3 日間、仙台市青葉区の東北医科薬科大学小松島キャンパスで開催させていただくことになり、大変光栄なことと存じております。

日本平滑筋学会は、研究者が消化器、泌尿器、婦人科、眼科、などの多領域にわたって基礎と臨床の境なく討論をすることのできる大変ユニークな学会であり、平滑筋研究に多大な貢献をしてきましたし、日本医学会の分科会としても認定されています。しかしながら、昨今学会活動を取り囲む状況が厳しくなっており、学会の今後に一抔の不安を覚えてもいます。それを払拭したい意図を込めて本総会のテーマは、「ブレイクスルーを求めて」にさせていただきました。

第 58 回総会では、2 つのシンポジウム、若手の会シンポジウム、漢方と平滑筋、一般演題(約 50 演題のご応募を頂きました)、のプログラムを企画しました。一般演題中の 20 演題は優秀演題賞応募演題で、例年以上の優秀演題賞へのお申し込みを頂きました。口演会場は一つとし、優秀演題賞応募演題以外に一般演題はポスター形式とさせていただきます。ポスター発表については、実のある討論をして頂きたいことから、座長をおくことをやめて 1 時間程の討論時間を設ける形式としました。

また、本総会は本年 4 月に開学したばかりの東北医科薬科大学にとって初めての全国医学会主催となりました。会員の皆様に東北医科薬科大学のことを知って頂きたいと思い、会場を本学のキャンパスとしました。交通の便がやや悪いのが難点ですが、ご容赦下さい。

昭和 34 年に本会の第 1 回総会が日本平滑筋電図研究会として仙台市で開催されて以来、本会はたびたび仙台市で開催されてきました。18 日の夕方には全員懇親会を企画していますが、私の出身地の秋田から貴重な地酒を手配し、皆様のことをお待ちしております。多くの会員の皆様、特に若手の先生にご参加を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



東北医科薬科大学 小松島キャンパス

Contents page

*第 58 回日本平滑筋学会を 迎えて 柴田 近	1
*会員計報	1
*入会のお誘い	1
*第 57 回総会のご報告 小林 誠	2
*理事会・評議員会報告 楠 裕明	3
*「若手の会」活動報告と お知らせ 伊原栄吉	3
*理事長に選任されて、 はや 1 年 羽生信義	4
*染谷 崇徳氏が第 2 回 白鳥常男賞を受賞	4
*JSMR 優秀論文賞決定	4

会員計報
謹んでお悔やみ申し上げます。

特別会員 田中直樹先生
(元東京慈恵会医科大学)
2015/9/10 享年86歳

名誉会員 藤井一元先生
(元広島大学)
2016/3/21 享年89歳

**日本平滑筋学会へ
ご入会を**

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医学会所属学会です。機関誌 Journal of Smooth Muscle Research は「IF 相当値」が 3 前後で国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます。

(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)

2015 年 8 月 25 日から 27 日の 3 日間、第 57 回日本平滑筋学会総会を山口大学小串キャンパス(医学部)総合研究棟で開催させていただきました。第 9 号ニュースレターおよび総会ホームページ(<http://jssmr57.umin.jp/index.html>)でのご挨拶でも申し上げましたが、平滑筋が多様な臓器に存在し、平滑筋研究者もまた多岐にわたる専門分野を持った多様性に富んだ集団である事、そして、多様な人々・多様な研究が互いに連携する事が、平滑筋研究の進歩に繋がると考え、本総会のテーマは、「平滑筋研究の未来を拓(ひらく)く～多様性と連携～」としました。

初日の 25 日に台風 15 号が山口県を直撃したため、残念ながら理事会と評議員会を除く各種委員会(理事会と評議員会は、26 日の昼休み時間帯に振替えて開催)と、評議員会懇親会が中止となりました。交通機関は航空・JR 共に大幅に乱れ、参加者の皆様には大変なご足労をおかけし、非常に恐縮しております。25 日夜遅くに宇部に到着された先生も多く、おかげ様で、26 日と 27 日の学術集会の進行には全く支障がなかった事、深く感謝申し上げます。皆様のご協力とご支援の賜と存じ上げます。本当に有り難うございました。

本総会では、「平滑筋研究の未来を拓(ひらく)く」道標として、平滑筋ホスファターゼ活性調節の中心となる CPI-17 を発見された江藤真澄先生(米国トーマスジェファソン大学)、腸壁内神経の再生・新生に希望の光を灯して下さった高木都先生(奈良県立医科大学)に特別講演をお願い致しました。漢方セッションでは、慢性便秘をテーマに、3 人の先生がたに講演をいただきました。また、「平滑筋研究の未来を拓(ひらく)く」新しい試みとして、シンポジウムを全て公募と致しました。その結果、「プロテインホスファターゼ 2A による平滑筋収縮制御」「慢性偽性腸閉塞症をめぐって」「ミオシン



江藤真澄先生の特別講演

軽鎖リン酸化研究の新展開: 循環器研究からシステム生物学へ」「平滑筋臓器の間質を構成する細胞群の特性と運動調節」の、4 つのテーマでシンポジウムを設ける事ができました。また、恒例となった若手の会のシンポジウムも、前回大会と同様に軽食の提供を継続致しました。さらに、「平滑筋研究の未来を拓(ひらく)く」礎となる若手研究者や学生の参加を促すため、これまでの優秀演題賞候補講演の中に、新たに「学生部門」(大学院生+学部学生)を設けさせて頂いたところ、若手研究者や学生から多数の応募演題をいただきました。また、一般演題にも多数の演題登録をいただきました。おかげさまで、総計 80 件の抄録の登録をいただき、充実した内容の学会プログラムを完成させることができました。資金面・運営スタッフ共に十分でなく、至らぬ点が多々あったと存じますが、皆様のご協力により、本総会を盛会のうちに終了する事ができました。参加者の皆様に、心より御礼申し上げます。



高木先生へ小林会長から特別講演の感謝状贈呈



総会運営に協力してくれた山口大学の皆さんと

平成 27 年 8 月 26 日(水)に山口大学にて開催されました理事会・評議員会について報告いたします。前日に国際ホテル宇部にて開かれる予定でしたが、大型台風による交通の乱れの影響で急遽、総会会期中に行うことになり、理事会 10 名、評議員会 30 名の先生にご出席頂きました。会員構成は平成 27 年 8 月 25 日現在、個人会員数 431 名(基礎 188 名、臨床 211 名、その他 32 名)、団体会員は 4 団体、昨年の報告時以降の新入会 24 名、退会 23 名でした。名誉会員には元編集長の鈴木光先生、特別会員には清水保雄先生、村田省吾先生、清水一政先生が推戴されました。春間賢財務委員長からは平成 26 年度の収支報告と平成 27 年度の予算が発表され、支出を大幅に抑えられたため、安定した運営できるようになったと報告されました。

この総会を以って春間賢理事長が 4 年の任期を終え、新理事長には羽生信義先生が選出されました。新理事には小林誠先生、神谷武先生、渡辺賢先生と楠の 4 名、新監事には松本英男先生が、福土審先生、岩切勝彦先生、宮崎浩二先生、仲吉朋子先生、張影先生の 5 名が新評議員に選出されました。

第 58 回総会副会長には井上隆司先生(福岡大学)が選出されました。第 58 回総会会長柴田近先生からは平成 28 年 8 月 17 日(水)~8 月 29 日(金)に仙台国際センターにて開催予定とのご報告がありました。第 58 回総会にも多数ご参加頂き、盛会となる事を期待しております。限られた時間の中で十分な協議はできませんでしたが、役員の皆様のご協力で予定の議事を進める事ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

—「若手の会」活動報告とお知らせ—

2016 年の「若手の会」の活動についてご報告申し上げます。まずは、2016 年 1 月 9 日、福岡にて、倉原琳(福岡大学)が当番幹事のもと、恒例の「冬期若手の会主催の研究発表会」が開催されました。第 1 回目の東京、2 回目の名古屋に引き続き、今回で 3 回目となりました研究発表会は、初の試みとして、以前よりご要望があった「託児ルーム」を設置したこともあり、全国各地から非会員 7 名を含む計 18 名が参加しました。この冬の研究発表会の主たる目的は、若手の会の会員相互のコミュニケーションをとること、次期総会で開催する若手の会主催シンポジウムの内容を話しあうことと、さらに平滑筋学会の領域に合致する非会員の若手研究者に参加してもらって、平滑筋学会に興味をもってもらうことです。



研究会の内容ですが、まずは「特別講演」として、鹿児島大学の家入里志先生に「ヒルシユスプルング病および類縁疾患の全国調査からみた小児難治性機能性消化管疾患の臨床像」というタイトルにて大変興味深い発表をして頂きました。引き続き行われた講演のタイトルは、桑原志実先生(九州大学)による「肺高血圧の病態形成におけるトロンビン受容体 PAR1 の役割」、玉田宏美先生(名古屋大学)による「新規サブタイプの探索と消化管再生メカニズムとの関連に注目した ICC 研究の新展開」、武谷三恵先生(久留米大学)による「モルモット精嚢の自発活動における粘膜の役割」、沼田朋大先生(福岡大学)による「金粒子を用いたイオンチャネル活性の光制御」でした。計 2 時間半にわたり、活発な討論が繰り広げられ、素晴らしい研究会となりました。今回の研究会を契機に、平滑筋学会(若手の会)に入会を希望されている方がおられました。新しい会員の獲得はこの会の最大の成果だと思います。

次に、第 58 回日本平滑筋学会総会にて開催されます「若手の会シンポジウム」について御紹介させていただきます。第 4 回目となります今回は、「若手から取り組む基礎と臨床の融合～方法論から平滑筋研究を切り開く」をテーマに、現在ご活躍中の 5 名の演者(基礎研究分野 2 名;臨床研究分野 3 名)によるシンポジウムを予定しています。当番司会として山村彩(金城学院大学)と伊原(九州大学)が担当致します。「方法論」の観点から、平滑筋学会のメインテーマであります「基礎と臨床の融合」にどれくらい切り込めるかは、乞うご期待です。また、柴田近会長(東北医科薬科大学)のご好意により、会場には恒例のフリースナックやドリンクが用意される予定です。第 58 回日本平滑筋学会総会、若手の会シンポジウムに是非ご参加くださいます様、よろしくお願い申し上げます。

(文責 若手の会会長・九州大学病態制御内科・伊原栄吉)

学会まであと1ヶ月になりました。学会前日の各種委員会等の通知が遅れましてお詫びいたします。現在鋭意準備しております。

春間先生の後任として理事長を拝命しましてから、最初の仕事として学会の歩み(沿革)をホームページに掲載しました。記憶の曖昧さと記録の重要性を改めて痛感し、会員の先生方からは貴重な情報を頂きました。

「若手研究者に目を向けた日本平滑筋学会」というスローガンを掲げ、各種委員会の再編成と若手会員の増加について3回のアンケートを行いました。各種委員会につきましては、従来のあり方委員会を「将来構想委員会」に発展させ、基礎と臨床の委員長と副委員長を置くことを提案させて頂きました。優秀演題賞選考委員会も基礎と臨床の交流を深めるため同様の提案をいたしました。若手会員に対してはまず医学生が発表する場合には、会員である指導者のもとに医学生は本学会に入会せずに発表できるように承認いただきました。若手会員の年会費軽減に対しては、35歳以下の会員に対して3,000円にするという提案をさせて頂きましたが、のちにMEDLINE対応の問題が持ち上がり、改めて審議していただきたいと思っております。

4回目のアンケートとしまして、JSMR掲載論文はMEDLINEで検索できますが、これを継続するにはPubMed Centralへの登録が必要で、多くの評議員の皆様から登録の賛成をいただきましたが、その費用が高いことが指摘されました。山本編集委員長にいろいろご尽力いただきましたが、論文数が少ないことが障害になっているようです。

会員数の増加、特に若手会員を増やすには、学会の内容、論文の数や質の向上が重要であるというご指摘も頂きました。これまで多くの会長が掲げられてきました「基礎と臨床の融和」を具体的にどう進め、幅広い「横断的な」平滑筋研究を学会としてどう展開していくかが課題です。学会前日の各種委員会等でご意見を伺いたいと思っております。

この4月に事務局を川崎医大から慈恵医大外科学講座へ移転し、医局の金沢由美子さんに業務を担当してもらっています。また中田事務局長も慈恵医大外科から臨床検査医学講座へ移籍し、勤務先も慈恵医大第三病院に変わりました。何分にも不慣れでご迷惑をおかけしますが、ご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

それでは、本学会発祥の地・仙台で、医学部の開設で全国から注目される東北医科薬科大学で皆様にお会いするのを楽しみにしています。

染谷 崇徳氏(東北大学)が第2回白鳥常男賞を受賞

白鳥常男賞は、平滑筋及びその関連領域の若手研究者の研究奨励を目的として設立されました。対象者は、国内会員の若手平滑筋研究者(応募時満45歳以下)であり、受賞者には賞状及び副賞10万円が授与されます。第2回白鳥賞は東北大学病院・胃腸外科の染谷 崇徳氏に決まりました。受賞対象論文は以下の通りです。Intracolonic Administration of the TRPA1 Agonist Allyl Isothiocyanate Stimulates Colonic Motility and Defecation in Conscious Dogs. Someya S, Nagao M, Shibata C, Tanaka N, Sasaki H, Kikuchi D, Miyachi T, Naitoh T, Unno M. J Gastrointest Surg. 2015; 19: 1342-9。尚、本研究に関する受賞講演は第58回総会時に行われます(8/18木曜日 13:50~14:00)。

Journal of Smooth Muscle Research 優秀論文賞は玉田宏美氏、石田美織氏に

日本平滑筋学会は機関誌 Journal of Smooth Muscle Research がさらなる発展を目的として優秀論文賞を創設しました。各巻毎に、会員が筆頭著者である掲載論文すべての中から、最も優れているものを原則として2編表彰するものです。第51巻(2015)につきましては玉田宏美氏ら(名古屋大学)と石田美織氏ら(旭川医科大学)の2編が選ばれました。

受賞者は第58回総会にて受賞講演をされます(8/18木曜日 13:30~13:50)。

●Hiromi Tamada, Hiroshi Kiyama. vol. 51; p.1-9
Existence of c-Kit negative cells with ultrastructural features of interstitial cells of Cajal in the subserosal layer of the W/W^v mutant mouse colon

●Minori Ishida, Kosuke Takeya, Motoi Miyazu, Akitoshi Yoshida, Akira Takai. Vol 51; p10-21
Force-inhibiting effect of Ser/Thr protein phosphatase 2A inhibitors on bovine ciliary muscle